

令和 6 年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人 谷岡学園
〈大阪緑涼高等学校〉

学校法人谷岡学園 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1 法人の概要

建学の理念

学校法人谷岡学園は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、それを(1)思いやりと礼節(2)基礎的実学(3)柔軟な思考力(4)楽しい生き方、と解釈しています。すなわち、まず人物的に優れ、社会に必要な知識・技能・資格を備え、かつそれを活用し得る広い視野・適応力・創造性を持つ、そして、何事にもプラス思考で取り組み、楽しい充実した生活を送ることのできる人材の養成を使命としています。

1 設置する学校・学部・学科等

(1)大阪商業大学

大学院	地域政策学研究科 地域経済政策専攻、経営革新専攻
経済学部	経済学科
総合経営学部	経営学科、商学科、公共経営学科(平成30年度より募集停止)
公共学部	公共学科

(2)神戸芸術工科大学

大学院	芸術工学研究科 芸術工学専攻、総合アート&デザイン専攻
芸術工学部	建築・環境デザイン学科、生産・工芸デザイン学科 ビジュアルデザイン学科、メディア芸術学科

(令和6年度より募集停止)

芸術工学部	環境デザイン学科、プロダクト・インテリアデザイン学科 ファッションデザイン学科、ビジュアルデザイン学科 まんが表現学科、映像表現学科、アート・クラフト学科
-------	---

(平成27年度より募集停止)

先端芸術学部	まんが表現学科、映像表現学科、クラフト・美術学科
--------	--------------------------

(3)大阪商業大学高等学校

全日制課程普通科

(4)大阪商業大学堺高等学校

全日制課程普通科

(5)大阪緑涼高等学校

全日制課程普通科
全日制課程調理製菓科

(6)大阪商業大学附属幼稚園

2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況(令和6年5月1日現在)

(1)大阪商業大学

※1…平成30年度より募集停止

学部等	学科〔専攻〕		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 地域政策学研究科	地域経済政策専攻	博士前期課程	10	20	4	7
		博士後期課程	3	9	1	2
	経営革新専攻	修士課程	10	20	7	10
	計		23	49	12	19
経済学部	経済学科		300	1,200	327	1,312
	計		300	1,200	327	1,312
総合経営学部	経営学科		400	1,600	475	1,791
	商学科		150	600	179	714
	公共経営学科※1		—	—	—	1
	計		550	2,200	654	2,506
公共学部	公共学科		250	1,000	248	1,034
	計		250	1,000	248	1,034
合 計			1,123	4,449	1,241	4,871

(2)神戸芸術工科大学

※1…令和6年度より募集停止 ※2…平成27年度より募集停止

学部等	学科〔専攻〕		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 芸術工学研究科	芸術工学専攻	博士後期課程	6	18	2	6
	総合アート&デザイン専攻	修士課程	27	54	42	86
	計		33	72	44	92
芸術工学部	建築・環境デザイン学科		100	400	47	47
	生産・工芸デザイン学科		100	400	104	104
	ビジュアルデザイン学科		100	400	105	105
	メディア芸術学科		100	400	160	160
	環境デザイン学科※1		—	—	—	220
	プロダクト・インテリアデザイン学科※1		—	—	—	168
	ファッションデザイン学科※1		—	—	—	85
	ビジュアルデザイン学科※1		—	—	—	264
	まんが表現学科※1		—	—	—	183
	映像表現学科※1		—	—	—	205
	アート・クラフト学科※1		—	—	—	141
	計		400	1,600	416	1,682
先端芸術学部	まんが表現学科※2		—	—	—	—
	映像表現学科※2		—	—	—	—
	クラフト・美術学科※2		—	—	—	—
	計		—	—	—	—
合 計			433	1,672	460	1,774

(3)大阪商業大学高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	325	362	1,151

(4)大阪商業大学堺高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	375	331	921

(5)大阪緑涼高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	180	124	407
全日制課程 調理製菓科	60	62	171
合 計	240	186	578

(6)大阪商業大学附属幼稚園

保育年限	募集定員	収容定員	入園者数	園児数
3歳児(3年)、4歳児(2年)、5歳児(1年)	50	170	39	122

3 役員・教職員の人数

(1) 役員(令和6年5月1日現在)

理 事	理事長	谷岡一郎
	理 事	谷岡辰郎
	理 事	松村秀一
	理 事	佐藤賢治
	理 事	好永保宣
	理 事	加藤幸江
	理 事	片山隆男
	理 事	板倉龍介
	監 事	常岡裕之
	監 事	西村義明
	監 事	岡山栄雄

(2) 評議員(令和6年5月1日現在) 18名

的場啓一	西本真治	高岸暎治	神戸直樹	谷岡一郎	片山隆男
谷岡辰郎	板倉龍介	好永保宣	岩田康宏	常岡裕之	佐藤賢治
寺田全輝	谷岡瑞子	渡辺平太郎	安藏伸治	小守良昌	加藤幸江

(3) 責任限定契約について

寄附行為第19条に基づき、令和6年5月1日現在、次のとおり責任限定契約を締結しています。

○対象役員氏名

(非業務執行理事) 加藤幸江 板倉龍介
(監 事) 常岡裕之 岡山栄雄 西村義明

○契約内容の概要

当該役員が本学園の役員として遂行した職務に関して、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任を負う場合、当該役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法その他の法令が定める最低責任限度額をもって、当該役員の本学園に対する損害賠償責任の額の上限とし、当該上限を超える部分については、責任を負わないものとする。

○契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

上記契約内容のとおり。

(4) 役員賠償責任保険契約について

令和6年1月27日理事会決議に基づき、令和6年4月1日付で役員賠償責任保険に加入しました。

○被保険者

理事・監事・評議員

○契約内容の概要

保 険 名 称: 私大協役員賠償責任保険制度

団体契約者: 日本私立大学協会

補 償 内 容: (個人に関する補償)

- ・法律上の損害賠償金
- ・争訟費用
- ・損害賠償請求対応費用
- ・公的調査等対応費用
- ・刑事手続対応費用
- ・財産又は地位の保全手続等対応費用
- ・信頼回復広告費用
- (法人に関する補償)

- ・法人内調査費用
- ・第三者委員会設置・活動費用

支払限度額:1 億円(免責金額 0 円)

契 約 期 間:令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 4 月 1 日

○支払対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等。

(5)教職員(令和 6 年 5 月 1 日現在)

学校名	教員・研究員	職 員	合 計
大阪商業大学	196(89)	161(20)	357(109)
神戸芸術工科大学	197(106)	73(9)	270(115)
大阪商業大学高等学校	124(39)	13(1)	137(40)
大阪商業大学堺高等学校	101(30)	16(2)	117(32)
大阪緑涼高等学校	98(45)	14(2)	112(47)
大阪商業大学附属幼稚園	21(5)	2(1)	23(6)
合 計	737(314)	279(35)	1,016(349)

※()は非常勤教職員(内数)、法人職員は大阪商業大学に含む。(役員関係及び兼務者は除く。)

2 事業の概要

大阪緑涼高等学校

(1) 学校基本領域

建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づき、学校行事や理事長講演及び日常の学校生活を通して、自校教育や4つの柱の理解と実践を生徒たちに伝えました。特に、「思いやりと礼節」については、生徒会の挨拶運動もあり、挨拶を励行する生徒が増え明るい学校になっています。また、藤井寺市との地域連携協定を活かし地域に信頼される学校になるよう実践しました。しかし、志願者は専願197名・併願367名、入学者は214名であり、昨年度と比較し専願者は増えたものの、入学者は募集定員を下回る結果となりました。2024（令和6）年度は、各コースのスクール・ポリシーを基本にし、特に、総合進学コースの系統の取組みを総括し、系統の再編を検討しました。

(2) 学習指導領域

各コースとも、生徒が「なりたい自分」になることができるようコースの特性に合わせ、基礎学力の定着を図ることに重点を置き、中学の学び直しを含め、放課後学習や学力補充を実施しました。欠点対象者補習については、全学年・全科目で学期末に実施することが定着しています。また、定期試験前には自発的に教室や職員室前の長机で学習している生徒も多く見受けられるようになってきました。一方で学力不振の生徒には、指名制による考査前の学力補充を行いました。1・2学年はタブレットの導入に伴い、授業外での主体的な学びについて、Clasiiの利用を勧め自学自習の習慣化を進めました。各種検定は、放課後の英検対策講座や朝の学習の時間での課題活動など、学校全体で取り組みました。特に漢字検定では1・2学年で昨年度より合格率を上げています。ただし、満足のいく結果には届いていないので、今後の更なる工夫が必要になっています。

文理ハイレベルコースは、より高い目標へのこだわりは堅持しつつ、生徒一人ひとりの希望と学力に応じた指導を行いました。その結果、京都女子大学・武庫川女子大学・摂南大学などに合格するなど、それぞれの希望進路に導くことができました。しかし、関西大学、関西学院大学、兵庫県立大学、近畿大学薬学部、高知工科大学など受験はしたが合格とはならず、難関大合格に向けた学習指導が必要になっています。

総合進学コースは「地域と社会」「言語と文化」「理数科学」「食と農マネジメント」「ビジネスと情報」の5系統となり、それぞれ総合的な探究の時間のシラバスの見直しをした結果、Inspire Highのカリキュラムの導入を決めました。

保育系進学コースは、保育にかかわる学習内容をバランスよく学ぶことで、保育士・幼稚園教諭に必要とされる基本的な知識や実践技術を身に付け、モチベーションの向上を図ることができました。また、地域や系列校の大阪商業大学附属幼稚園の協力のもと、5日間の保育実習や絵本の読み聞かせなどの体験学習を実施することで、未来の保育士・幼稚園教諭としての資質向上を図る機会を得ることができました。結果として、保育技術認定1級の取得が10名となりました。

調理製菓科は、第15回全国和菓子甲子園において、調理師コースの生徒が準優勝に輝きました。調理師コースは、目標である全員調理師免許取得を達成しました。ふぐ調理師免許試験（希望制）には20名が受験し11名が合格しました（合格率55.0%）。専門調理師免許技術考査は19名が受験し全員が合格しました。総合調理実習では3年間の成果を調理師コースの保護者にも披露しました。製菓衛生師コースは、目標である製菓衛生師国家試験に全生徒27名が受験し22名の生徒が合格しま

した（合格率 81.5%）。スイーツコンテストとパン販売では、保護者にも来校いただき教育活動の一旦と生徒の成長を確認いただきました。

(3) 生活指導領域

生活指導の最前線は担任であることを教職員に伝え、指導を行った担任が孤立しないよう学校全体で取り組み、生徒自身が自ら考え正しい行動ができるような指導を心掛けました。2024（令和 6）年度から、身嗜み指導のポイント制を廃止し、預かり指導を行いました。また、生活指導週間を設け規範意識の高揚に努めました。

遅刻指導は、その経緯や事情を踏まえつつ、月毎で遅刻回数に基づき早朝登校の指導を行っています。教員の指導で 8 時 30 分登校の習慣化を図り、年間の遅刻回数減少と遅刻指導対象生徒の減少につながっています（2024（令和 6）年度 3 年 2,942 件・2 年 1,678 件・1 年 1,053 件、2023（令和 5）年度 3 年 3,260 件・2 年 2,554 件・1 年 1,617 件）。

生徒会による「挨拶の励行」「校内美化」など自らの生活を律する活動に取り組みました。更には、学校周辺の一斉清掃の取組みを各学期に 1 回とし、「校内美化」だけでなく、地域の美化・景観保全にも貢献しました。今後も学校行事を中心に、生徒会が活発に活動できるように指導を行っていきます。

昨年度同様、男女 1 名ずつのカウンセラーを配置し、課題を抱える生徒にカウンセリングが行えるような体制を整えました。また、不登校生等委員会において、各学年と保健室・管理職の情報共有と対応への協議を行い、生徒への登校支援を行いました。

いじめ問題について、年 3 回実施しているいじめアンケートをもとに関係委員会や学年・養護教諭・カウンセラー・管理職が情報共有し、早期発見・早期対応に取り組んでいます。

(4) 進路指導領域

個々の進路目標に対応するよう、進路指導部と教科が共同し、コースの特徴を活かした補習や個別指導を行いました。その結果、進路実績は全卒業生のうち 4 年制大学は 44.6%、短期大学は 8.3%、専門学校は 28.4%、就職は 8.3%、その他 10.1%という結果となりました。4 年制大学の合格者のうち、指定校推薦 31 名（昨年度 11 名）・協定校推薦 23 名（昨年度 25 名）・総合型選抜 29 名（昨年度 24 名）と、年内入試受験（合計 83 名（昨年度合計 60 名））の傾向が顕著になりました。また、2 年次の理事長講演を始め、総合的な探究の時間での出前授業、キャンパスツアーの実施等の取組みにより、大阪商業大学が進路選択の一つとして生徒に認知されてきています。結果としては、大阪商業大学への進学者が 15 名と昨年度より減少しましたが、2 桁を維持できました。神戸芸術工科大学へも 7 年ぶりに進学者を出すことができ、12 月には教員研修としてキャンパス見学会を行いました。今後も、系列校としての進路指導を行います。

進路指導の過程で、教員間で進路情報を共有し、オープンキャンパスへの参加の呼びかけや、進路相談を積極的に実施しました。今後も、担任・学年・進路指導部が生徒の進路希望をより丁寧に把握し、目標に向け集団的に支えていきます。

調理製菓科における就職希望者は 15 名で、調理製菓科教員や担任・進路指導部員が様々な高校求人を集めることとなりました。今後も調理製菓科教員のネットワークを駆使し、生徒の希望にかなった就職先決定につなげていきたいと考えています。また、ホテル・レストラン・ベーカリーでのインターンシップや職場見学から進路を選択していくケースも少なからずあり、今後も継続的に実施していきます。就職希望者以外の生徒は、様々な入試で、専門学校や 4 年制大学に進学しました。

(5) 入試・渉外領域

2025（令和 7）年度入試も昨年度同様、募集定員 240 名で実施しました。結果は 214 名入学と昨年度より 28 名増となりましたが、近隣公立高校の多くが定員割れとなり併願の戻りが期待できない状態になっています。

募集活動は、企画広報部と入試渉外委員会が中心となり、教職員全員で本校教育の魅力や教育内容が伝わるよう積極的に行いました。2023（令和 5）年度のオープンスクールから、満足して帰宅していただくために、中学生及び保護者が興味を持ったコースの説明のみ各ブースで受けることができる形式に変更し、タイムパフォーマンスを向上させました。2024（令和 6）年度は、各ブースの説明を MiRISE（本校の魅力を生徒主体で PR する活動団体）中心に生徒が行い、補足説明を教員が行う体制にし、本校の生徒を通して入学後の成長が想像できるような仕組みにしました。その結果、昨年度比でオープンスクール 123 組、入試説明会 9 組、個別相談会 6 組の増加がみられました。2025（令和 7）年度は、何をすれば入試説明会の参加者が増加するのか工夫が必要になっています。

中学校対象説明会は 37 校（昨年 30 校）、塾対象説明会第 1 回 39 塾・第 2 回 43 塾の合計 82 塾（昨年 58 塾）の参加があり、中学校、塾ともに参加数を増やしており興味を持っていただいていると考えられます。受け入れ授業については 3 年生が 4 校、2 年生が 8 校となり、昨年度より 2 校増加しました。出前授業については 1・2 年生対象も含めると 15 校となり、昨年度より 7 校増加しました。

(6) 教員の研修・研究領域

私学マネジメント協会主催の研修会及び外部団体主催の研修会に積極的に参加し、学年・分掌でのフィードバックを行いました。また、校内では、常勤講師を対象に 12 回の研修会を行いました。その他、人権や特別支援、不登校生徒、カウンセリングについての研修は全教員を対象として行いました。公開授業を年 2 回実施し、1 回は ICT 機器（Chromebook）必須の授業とし、教科内で意見交換をするなど ICT 機器の利活用について研鑽しました。

(7) 経営領域

学習面・生活面で生徒個々の特性に合わせたきめ細やかな指導を行っていますが、2024（令和 6）年度の転退学者が 1 年生 14 名、2 年生 8 名と 22 名（昨年度 24 名）になり、全校生徒 578 名の小規模校としては大きな数となっています。特に、調理師コースは入試科目を 3 教科にしたことで、安易な考えで入学した生徒が多く学校に定着できませんでした。如何に転退学者を減少させるか検討し、中学校の信頼を得ることが、経営上も重要なポイントになります。保育系進学コースは、入学者が少なく総合進学コースとの合同クラスを編成しました。総合進学コースは、保育と系統に特化した科目の時間割の検討を進め、系統でのクラス編成を見直した結果、2025（令和 7）年度は 2・3 年生を 6 クラス編成とし、人件費の削減に努めました。文理ハイレベルコースは卒業生の進路実績で入学者数が大きく変動します。2025（令和 7）年度は昨年度比 2.3 倍の 14 名が入学しました。今後も如何にして進路実績を上げて入学者数を増やすかが課題になります。

更に他の課題としては、図書館棟（4 号館）の活用です。図書館機能を別の場所に移動することができず、3 階以上の部屋が活用できていません。それにも拘らず維持費が経営を圧迫しています。

(8) その他の領域

藤井寺市の連携事業として、保育系進学コースの生徒が藤井寺市立図書館で絵本の読み聞かせを実施し、藤井寺市立第一・第三保育所の幼児が来校した際の観察・ふれあい実習等を行いました。地域の各種団体から本校へイベント等への参加依頼もあり、可能な範囲で参加しました。今後も地域との

繋がりを大切に地域に貢献できる学校運営を行います。

保護者会・ふじなみ会（同窓会）は、活発に活動しています。特に、保護者会の実行委員にはオープンスクールでブースを担当していただき、保護者目線で来場者に説明をしていただきました。

学校関係者評価をお願いしている藤井寺市区長会会長・春日丘区長・藤井寺市教育長・辛国神社宮司を各行事、緑涼祭などに招待し、本校生徒の様子を実際に見てもらう機会を設定しました。学校関係者評価会議では、そうした実際の活動も含め多くのご意見をいただくことができました。

教職員の労務に関しては、コロナ禍で実践した生徒の完全下校時間・教員の最終退館時間の徹底を継続して実施しています。また、衛生委員会を定期的開催し、健康診断の結果を基に、産業医と相談し教職員への再検査勧告を実施しました。

資 金 収 支 内 訳 表
令和6年4月 1日から
令和7年3月31日まで

収 入 の 部

(単位 円)

部 門 科 目	大阪緑涼高等学校
学生生徒等納付金収入	240,838,200
手数料収入	11,343,800
寄付金収入	14,621,576
補助金収入	355,674,167
国庫補助金収入	0
地方公共団体補助金収入	219,672,367
地方公共団体授業料軽減補助金収入	136,001,800
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	49,030
受取利息・配当金収入	179,502
雑収入	42,802,635
借入金等収入	0
計	665,508,910

支 出 の 部

部 門 科 目	大阪緑涼高等学校
人件費支出	594,437,435
教育研究経費支出	173,659,071
管理経費支出	41,702,224
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	14,032,306
計	823,831,036

事業活動収支内訳表

令和6年4月 1日から
令和7年3月31日まで

(単位:円)

部 門			大 阪 緑 涼
科 目			高 等 学 校
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	240,838,200
		手数料	11,343,800
		寄付金	0
		経常費等補助金	355,674,167
		付随事業収入	49,030
		雑収入	42,802,635
		教育活動収入計	650,707,832
	事業活動支出の部	人件費	620,176,690
		教育研究経費	296,544,649
		管理経費	51,365,608
		教育活動支出計	968,086,947
教育活動収支差額		△ 317,379,115	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	179,502
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	179,502
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
	教育活動外収支差額		179,502
経常収支差額		△ 317,199,613	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	14,621,576
		特別収入計	14,621,576
	事業活動支出の部	資産処分差額	193,010
		その他の特別支出	0
		特別支出計	193,010
	特別収支差額		14,428,566
基本金組入前当年度収支差額		△ 302,771,047	
基本金組入額合計		△ 13,487,296	
当年度収支差額		△ 316,258,343	
前年度繰越収支差額		△ 11,780,732,916	
翌年度繰越収支差額		△ 12,096,991,259	

(参考)

事業活動収入計	665,508,910
事業活動支出計	968,279,957

※人件費、管理経費には、法人経費が含まれています。